

大村市の学力対策の取り組みについてお知らせします

小・中学校では、全国学力・学習状況調査(以下、「全国調査」)や標準学力検査などの結果を最大限に活用して、子どもたちの学力の定着・向上に努めています。本年度の取り組みをお知らせします。

平成25年度全国調査の結果

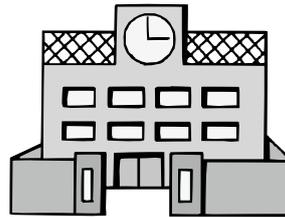
○教科に関する調査

〔実施日〕平成25年4月24日  
〔参加状況〕小学6年生 1,072人  
                  中学3年生 969人

	調査問題	平均正答率		問題数	平均正答率	
		本市	全国		本市	全国
小学校	国語A	59.8	62.7	18	10.8	11.3
	国語B	46.2	49.4	10	4.6	4.9
	算数A	75.6	77.2	19	14.4	14.7
	算数B	55.9	58.4	13	7.3	7.6
中学校	国語A	74.7	76.4	32	23.9	24.4
	国語B	64.8	67.4	9	5.8	6.1
	数学A	60.9	63.7	36	21.9	22.9
	数学B	38.4	41.5	16	6.1	6.6

〔概況〕

- ◆いずれの調査も、全国平均を下回る状況です。特に、小学国語・中学数学は、約3ポイント下回り、小学国語B・小学算数Bは、平成19年度以降下回る状況です。
- ◆問題数・平均正答数に注目すると、ごく僅差と考えられます。また、基礎的な学習事項など、全国平均を上回っている内容や改善が見られる内容もあります。



○質問紙調査(一部抜粋)

質問項目	平成25年度				平成22年度			
	小学6年生		中学3年生		小学6年生		中学3年生	
	本市	全国	本市	全国	本市	全国	本市	全国
1 毎日朝食を食べている	96.7	96.3	93.4	93.8	97.3	96.4	95.5	93.3
2 夜11時(中学生は12時)までに就寝する	90.7	80.0	78.4	76.4	98.8	83.7	77.7	72.2
3 7時まで起床する	89.4	85.2	78.3	71.2	92.5	77.1	78.5	67.1
4 授業以外に1時間以上学習している(月～金)	62.8	63.2	73.5	68.6	55.9	58.2	65.6	66.2
5 学校以外で30分以上読書をしている(月～金)	36.0	36.6	26.4	29.5	32.8	35.9	31.9	27.3
6 携帯電話で通話やメールをしている	42.3	46.0	52.0	64.7	14.3	23.1	42.5	52.8
7 テレビゲームを2時間以上使用する(月～金)	21.1	28.2	23.7	27.5	21.1	23.0	18.0	63.6
8 人の気持ちが分かる人間になりたいと思う	92.7	93.0	95.3	94.2	92.9	92.0	93.9	92.7
9 いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思う	96.7	95.9	96.3	93.5	95.8	95.0	91.0	91.1
10 今住んでいる地域の行事に参加している	51.7	63.9	22.9	41.6	56.3	61.6	20.0	34.3
11 国語の解答を文章で書く問題に、最後まで答える努力をした	66.1	69.8	73.5	73.0				
12 算数・数学の解答を言葉や式を使って書く問題に、最後まで答える努力をした	72.7	74.4	40.0	44.9				

〔概況〕小・中学校共に、これまでの結果とほぼ同傾向であり、全体的におおむね望ましい状況です。

【生活面(質問項目番号:1、2、3、6、7)】

- 「早寝・早起き・朝ごはん」が定着・充実しており、全国平均を大きく上回る状況が継続できています。
- 携帯電話、テレビゲームなどの使用状況は、全国平均を下回る状態が継続できており、家庭での使用の約束づくりなどがうまくなされているようです。
- ▲携帯電話などの所持率が徐々に高くなっており、子どもへの情報モラルの指導を継続的に行う必要があります。

【学習面(質問項目番号:4、5、11、12)】

- 授業以外で1時間以上学習する子どもが増加し、特に中学3年生は小学6年生時から大幅に増加しました。
- ▲学校外で30分以上読書する子どもは全体の約3割程度で、読書の習慣づくりが今後特に重要になってきます。
- 国語、算数・数学共に、「書く問題に最後まで答える努力をした」子どもの数は全国平均程度です。学校では、この結果が正答に結びつくように、授業の中で意識的に書く活動を取り入れていきます。

【心の面(質問項目番号:8、9、10)】

- 優しさや規範意識などがしっかりと育まれており、全国平均を大きく上回る状況が継続できています。
- ▲「地域の行事に参加する」子どもの数は、全国平均を大きく下回る状況が続いています。学校では、社会科、道徳の時間、学校行事などのさまざまな機会に、「大村」を誇りに思う教育活動を充実させていきます。

## 平成25年度の主な重点課題

小学校	国語A	基本的な漢字の読み書き、ことわざの意味理解、資料を読んでわかったことを書くこと
	国語B	目的や意図に応じて必要な内容を適切に引用して書くこと、複数の資料を比べて読むこと
	算数A	割合、基準量・比較量の理解など「数量関係」の領域
	算数B	示された式から求めた値の意味を解釈したり判断に活用したりすること、グラフから情報を読み取り判断すること
中学校	国語A	伝えたい事柄を明確にして書くことや段落を二つに分けることなど、「書くこと」の領域
	国語B	表現の仕方に注意したり情報を関連付けたりして読むこと、読んだ内容について根拠を明確にして自分の考えを書くこと
	数学A	表と式、グラフの関係を関連付けて理解し処理する「関数」の領域、「資料の活用」の領域
	数学B	事象を数学的に解釈し、問題解決の方法を数学的に説明すること

## 調査結果を生かした取り組み

**条件**

太郎さんのクラスでは、資料を読んで自分の家庭学習をふり返り、考えたことを作文にすることになりました。「資料を読み、自分の家庭学習をふり返る」という題名で、次の条件に合わせて作文しましょう。

○題名は書かずに、本文から書き出すこと。

○①の段落は、「短期記おく」「長期記おく」「リハーサル」の三つの言葉を使って、資料の要点を四十字以内でまとめること。

○②の段落は、資料を読み、自分の家庭学習について考えたことを六十文字以内で書くこと。

○文末は、「くだ」「くである」といった言い切る形にすること。

**改善状況**

依然課題ではあるものの、同程度の問題（平成21年度全国調査）の平均正答率と比較すると、正答する生徒が増加しており、改善の方向に向かっています。今後も、さまざまな場面面で、正答の条件や正答例を丁寧に説明し、書く力を高めていきます。

今回	平成21年度本市	平成21年度全国
①38.0%	14.2%	17.8%
②25.8%		

**改善策**

複数の資料を読み、意見文を書く学習で、目的を持って読んだり、関連付けて書いたりする場面を設定する。

**重点課題**

目的や意図に応じて、事象や意見などを関係付けながら書くこと

**（小学国語）**

### （中学数学）

#### 重点課題

事象を数学的に解釈し、問題解決の方法を数学的に説明すること

#### 改善策

1次関数の学習後に、携帯電話の料金プランを考える学習を行い、学習内容を活用したり、説明する場面を多く設定したりする。

#### 改善状況

改善策実施後、右に示す問題に取り組みせたところ、次のような平均正答率となりました。

問題	今回	平成22年度本市	平成22年度全国
問1	67.6%	54.3%	54.4%
問2	59.9%	47.1%	31.3%

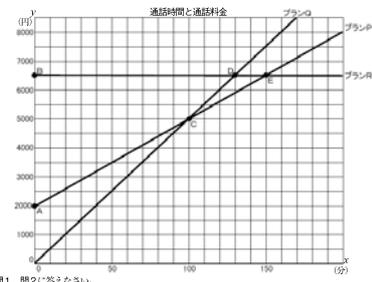
依然課題ではあるものの、同程度の問題（平成22年度全国調査）の平均正答率と比較すると、正答する生徒が増加しており、改善の方向に向かっています。今後も、関数の学習に限らず、全ての領域で学習内容を活用したり、説明したりする学習を増やしていきます。

【1次関数】の学習の確かめしよう 2年 組 委員長

たけしさんは、携帯電話会社に就職体験を行いました。次の表はこの会社の料金プランをまとめたものです。

料金プラン	1か月あたりの通話料金
プランP	基本料金2000円で、通話1分ごとに30円ずつ加算されます。
プランQ	基本料金0円で、通話1分ごとに50円ずつ加算されます。
プランR	基本料金6500円で、通話1分ごとに40円ずつ加算されますが、通話200分までは加算されません。 ※基本料金は、通話するために必要な料金のことです。

たけしさんは通話時間によってどのプランの料金が安くなるかを調べるために、 $x$ 分通話したときの料金を $y$ 円としてプランごとの $x$ と $y$ の関係をグラフに表すことにしました。次のグラフは、通話200分までのものです。



次の問1、問2に答えなさい。

問1 ある通話時間では、プランQとプランRのどちらを選んでも通話料金は同じになります。このときの通話時間は、グラフ上のどの点の座標から分かりますか。点Aから点Eまでの中から1つ選びなさい。

問2 1か月あたり140分通話するお客さんへ、通話料金が最も安いプランをすすめようと思います。おすすめのプランは、それぞれの料金を計算しなくてもグラフから判断できます。その方法を説明しなさい。

市では、全国調査をはじめとする各種調査結果を一人一人の子どもたちのために活用することを最優先として、分かる授業、学校を挙げた学力が定着・向上する取り組みを推進していきます。学校からは、各家庭へ学校での取り組みについて具体的に説明を行います。また、質問紙調査にある基本的な生活習慣・学習習慣の傾向は学力面に大きく影響します。各家庭でも家庭教育の役割を再度確認のうえ、学校と協働して子どもの学力の伸長を支える取り組みをお願いします。